

平城京右京三条一坊八坪の調査

—第629次

調査の概要 個人住宅建設にともなう発掘調査。調査地は、右京三条一坊八坪の南北中軸線のすぐ南側、かつ坪の西端近くに位置する。東隣の三条一坊一坪では、坪の南北中軸線上に坪内東西道路の存在が指摘されている（平城第552次、権原考古学研究所2015年度）。今回の調査区は坪内東西道路の南側溝の延長上に位置するため、八坪における坪内道路の有無の確認を主な調査目的とした（図225）。調査期間は10月19日から10月22日、調査面積は東西5m、南北4mの20m²である。

基本層序と検出遺構 基本層序は、①表土・造成土（30～40cm）、②耕土・床土（約20cm）、③暗灰色シルト（近世以降の包含層、約10cm）、④青灰色シルト（弥生時代の遺物包含層、約2cm）、⑤青灰色粘質土（20～30cm）、⑥黄灰色砂質土（30～35cm）、⑦明黄色土（地山）である。④の上面（標高64.8m）で遺構を検出した。

調査区の東北隅で土坑SK3480を検出した（図226）。北肩・東肩が未検出のため、全体の規模は不明。南北約0.6m、東西約2.7m分を検出。深さ約0.5m。（岩永 玲）

出土遺物 SK3480や包含層から整理用コンテナ1箱分の弥生土器・土師器・陶磁器等が出土した。SK3480からは弥生時代後期の土器が出土し、広口壺、長頸壺、高杯等を含む（図227）。1・2は広口壺。1は頸部、2は胴部にハケ調整をほどこす。（丹羽崇史）

このほか、木製品、古代から近現代の瓦片が包含層から数点出土した。

まとめ 目的とした奈良時代の坪内東西道路は確認できなかったが、弥生時代の土坑SK3480を検出した。調査区周辺でも、弥生時代後期の土器を含む溝SD2521（平城第248-11次）や、弥生土器を含む土坑（平城第388次）を検出している（図225）。SK3480との関係は不明であるが、一連の遺跡を構成する可能性がある。SD2521は、幅1m、長さ1.3mの範囲に整理箱11箱分の土器を含むことから、方形周溝墓の一部と解釈されているが、全体の形状は不明であり、断定は難しい。SK3480についても、その規模から方形周溝墓の一部である可能性があるものの、検出面積に比して出土した土器が少なく、現状ではその性格は不明である。（岩永）

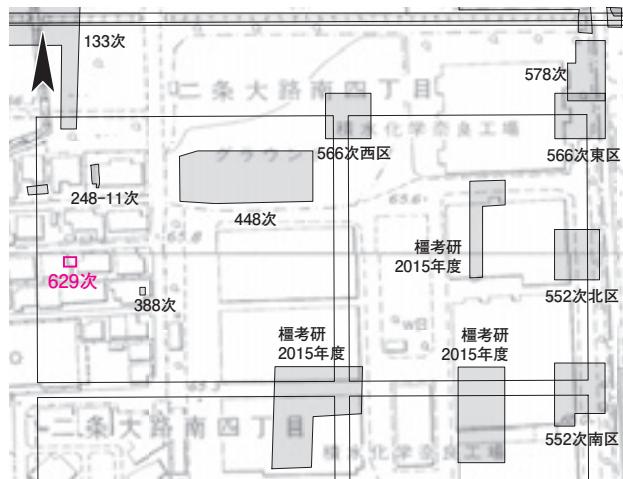


図225 第629次調査区位置図 1:3000

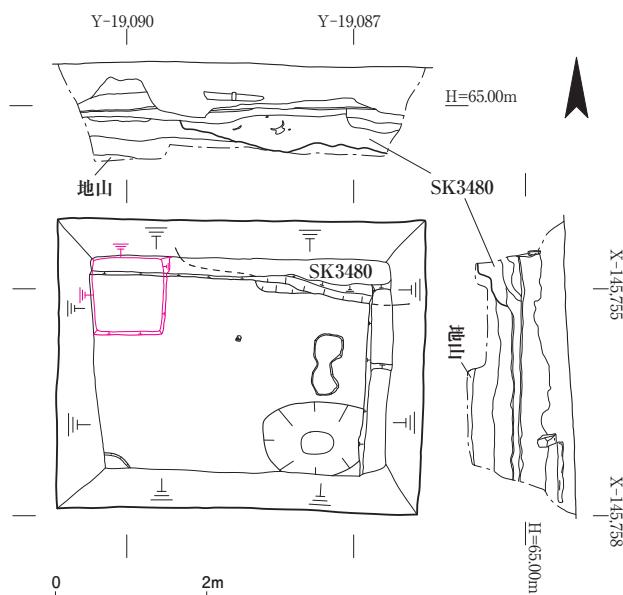


図226 第629次調査区遺構図・土層図 1:100

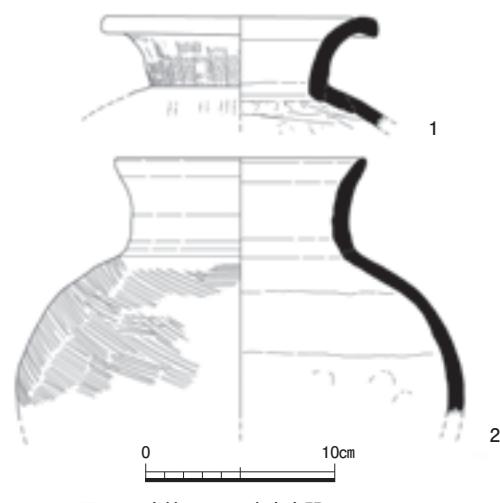


図227 土坑SK3480出土土器 1:4